



12. やっぱりそういう人は特別でしょ？

(2. 2) c. 信徒として担う奉仕職)

[項目のねらい]

信徒奉仕職を担うということは、その人を特別な地位につけることではないので、信徒間に上下関係を作らないよう特に注意しなければならない。しかしそれと同時に、役割にともなう権限を、他の信徒は尊重しなければならない。

あわせて、「叙階による奉仕職」と「任命による奉仕職」との違いを確認し、その使命に上下があるのではなく、それぞれ独自の役割を担うことを押さえておく。

(「10.」参照。なお、司祭と信徒との関係は、「14.」で改めて取り上げる。)

◇分かち合いのポイント◇

- ・信徒の担う役割は基本的に一時的なものであり、共同体からの委任に基づいていることを確認する。一時的であるがゆえに、身分とは関係しない。
 - ・任期があるもの、ないものはなぜそうなっているのか、任期を決めることの必要性なども考えてみるとよい。
 - ・教会での指示の関係は、信者歴・年齢・男女・社会的地位・財産などによるのではなく、純粋に共同体の中での選び(委任)に基づく必要があることを確認する。
- この点で、具体的な体験を通して共同体としての課題をまとめることによって、今後にかすようにしたい。

13. 奉仕職を担うために、まず大切なことは？

(3. 1) a. 意識の刷新)

[項目のねらい]

信徒奉仕職を担うにあたって重要と考えられる、教会についての基本的な理解4項目(奉仕する存在・皆が責任を担う・役割は異なる・それぞれの役割)を確認し、特に教会が奉仕する存在であることを深める。

◇分かち合いのポイント◇

- ・解説文には、留意点として①～④が挙げられているが、ここでは主に①について取り上げ、②以降は次の項目「14.」で取り上げる。
 - ・第一の質問の分かち合いでは、奉仕する人に必要な共通した姿勢や態度を中心に出し合い、「具体的な例」の話だけにならないように注意する。
- 出されたものを模造紙に箇条書きにすると、次の分かち合いがやりやすい。
- ・第二の質問は、第一の分かち合いで出されたものを受けて分かち合う。